

分野

V 教育・子育て

分野内の整理

2. 子どもたちの学習環境について

1. これまでの取組みと成果の概要（現状）

- ・H24.11に子どもの心情に配慮した調査を実施。回収率は40%で、内7割の児童生徒は問題ない様子だったが、悲しみや孤独感を持つ児童もあり、個別に対応。
- ・中学では進路希望調査を実施。県外避難の生徒には、福島県教育委員会から当該教育委員会に依頼。回収後、中学校教職員が家庭訪問や個別の進路相談を実施。
- ・スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーが児童・生徒および保護者に対する相談活動などの支援をおこなった。
- ・「福島に夜間中学をつくる会」と「ビーンズふくしま」の2つの非営利団体の協力により、仮設住宅の集会所を利用して学習支援活動を実施。
- ・浪江小学校では「ふるさとなみえ科」などの取組みをおこなった。浪江中学では総合学習の時間で、ふるさと浪江講演会や陶芸教室などをおこなった。
- ・保健師の協力のもと、孤独感をもっている子育て中の母親に対して、電話での対応を実施。
- ・サークル活動を実施。

2. 部会での議論の概要（課題）

- ・双葉郡内に設置が議論されている中高一貫校を原発が収束していない状況で、双葉郡内に設置することに疑問が呈された。
また、復興人材を育成するような高等教育機関の設置の要望や、浪江の文化や歴史を伝える教材や機会を充実させてほしいとの要望があった。
- ・子どもの心の支えになっているのは浪江での学びだが、原発が不安定であるため、浪江に戻るかは別問題。
- ・浪江小中学校に通っている児童生徒はスポーツ少年団などの地域活動に参加できないため、居場所がない。
- ・浪江のことを残していかないと、浪江を担っていく人がいなくなる。押し付けでなく、浪江町のことを想ってくれる人材を育成することは必要。
- ・浪江小中学校以外に通っている児童生徒の多くが避難先の“地元の子”として順応しているが、避難先の教育環境の情報の不足や新たな環境でのトラブルに困惑している。
- ・借上げ住宅や浪江町民の避難者が少ない地域では、サークル活動がないため、孤立防止のための支援が不足している。

3. 部会からの提言（課題解決のための提言）

- ①双葉郡の教育機関や浪江小中学校においては、浪江や復興を担う人材の育成を図ること。
- ②浪江小中学校以外に通う児童生徒への支援をおこなうこと。
- ③町民の協力を得て、震災前の浪江の情報や地域の歴史を収集し、伝承のための施策を検討すること。

4. 目的達成のための手法案（課題解決のための具体的なアイデアの提案）

- ①浪江や復興を担う人材の育成
 - ・中高一貫校についてのアンケート
 - ・浪江の歴史についての副読本の作成
 - ・浪江小中学校に浪江の歴史や浪江らしさを感じられるものを展示
- ②浪江小中学校以外の児童生徒への支援
 - ・避難先の学校教育についての相談対応を継続する
また、随時、相談を受けていることを周知する
 - ・いじめなど避難先でのトラブル対応についての事例集の作成
 - ・いわきや会津など仮設住宅がない地域での通学支援
 - ・子育ての学習会の実施
- ③伝承のための情報や歴史の収集
 - ・震災前の浪江の情報や地域の歴史を収集し、デジタル化する
 - ・上記施策のために、町民と協力（商工会の写真の保存等）